

東北関東大震災アレルギー支援ニュース

発行日 平成 23 年 3 月 24 日

ボランティアの協力でこそ物資が運送

3月20日(日)、車持参の運転ボランティアで参加した稲葉さんと一緒に栗木が仙台、盛岡に第2便の支援物資を運んで出発。今回は(1)仙台などの要望に応じた支援物資を届けること、(2)被災地各地に必要な物資を届け、「アレルギーでお困りの方へ」ポスターを張り巡らしニーズを掘り起こす(3)被災地の自治体やボランティアなど連携を広げる、という3つの目的でのスタートです。

名古屋から新潟・長岡でエコライス号と合流の予定が出発時間が遅れたため、合流地点を仙台に変更。



河村さん(左)と稲葉さん

しかし、仙台から盛岡に乗りついていただける車持参の運転ボランティアの方が来れなくなり、あわてる。

急遽、埼玉の運転ボランティアに連絡、車の調達ができずレンタカーで仙台まで来ていただくことに。ウルトラCの交代劇で何とか合流できホッとする。名古屋号は約12時間800kmを越える運行の後、翌々日早朝勤務のため、とんぼ返りで帰る稲葉さんの無事を願い、見送る。稲葉さんは丸1日、1600km以上の走行となる。長距離運転に慣れたボランティアの協力がなければとても支援物資を届けることができない。

無事、仙台・あっぷるんるんクラブ(ヘルシーハット)に到着し、打合せ、要望のあった荷を降ろすことに。時刻は11時近くであった。なんと!13時間近くもひたすらに走ったことに。東北は遠い!アレルギーに理解していただける中継がほしい!

12時過ぎた。軽い食事をとり、寝ることに。



3月21日(祝・月)

朝が早い。5時には目が覚める。メールを読む暇がなく、持参のPHSではメールがたまりすぎ受信するのにいつもより多くの時間がかかり、うまく受信できず時間ばかりが過ぎていく。



8時にエコライス号が、到着。オムツカバーなどをあっぷるんるんクラブに降ろし、急いで出発。

岩手県社会福祉協議会「ふれ愛ランド」に到着。すでに盛岡アレルギーっ子サークル「ミルク」の代表藤田さんご夫妻やお父さん、友人などが待っていた。避難所周りの聞き取り項目などを打合せ、分担した地域に散会。

我々は、最初に物資の拠点となっている「ふれ愛ランド」を訪問。物資拠点として利用させていただいている館長さんにご挨拶。夜の仮眠場所の利用もお願いします。



その後、エコライス号と一緒に陸前高田市に向かう
TVの映像で見るのとは違って、どう表現してよいか分からないほどの惨状である。
思わず合掌する お亡くなりになった皆様のご冥福を祈らずにはいられない。



どこから行っていいか皆目検討もつかないのでとりあえず、まずは大きな避難所に行ってみようと、第一中学校避難所を訪れる。

TVなどでよく報道される避難所であった。仮設所の建設は急ピッチに始まっていた。
メディアも多く、日赤の医療班が入って、怪我や慢性疾患の治療にも行っていた。

「保健室」が目に入ったので、そこに入り、看護婦さんとお話をし、ポスターの張り出しと物資の受け取りをしていただくことになりました。(ポスターについては管理を担当される方と話し合い、了解) 後でわかったことだが、盛岡のお届け隊のメンバーが避難所に入っており、「アレルギーの方はいませんか」と大きな声で呼びかけたところ、ゆっくりと前のほうにでてきて、ただ、黙ったまま立っているのので、「アレルギーの方がいるのですか？」と声をかけると、頷いて、「5才になる小麦アレルギーの子がいます」と申し訳なさそうに、言われたそうです。そこで、頑張って下さいね、と声をかけアルファ化米と子ども用のおせんべいを渡すと大変喜ばれたとの子でした。しかも後日談として、翌日には避難所の別棟に1歳5ヶ月のアレルギーの子がおり、男の子へのせんべいが伝わり、同じようにせんべいが渡されたそうです。

こうして、阪神大震災のときもそうでしたが、災害が大きくて、犠牲者が多いと、アレルギーの患者さん(家族)は、もっと大変な人もいるのでと、遠慮してしまいますことがよく見受けられます(神戸アトピッ子の会「感アンケートより」)。



少し小さな避難所にも行ってみようと「希望が丘病院」へ。声をかけると管理者の一人と名乗られた方が出てきてポスターの張り出しをお願いすると、みんなに聞いてみよう、すぐに声をかけてくれました。

小学生の男の子が、「ぼく鼻水がよく出てくるのだけど・・・」と。すぐ隣の避難所のお医者さんに見てもらおうことなどを話を

すると、早速マスクをしてきてくれました。子どもに、一般の救援物資のお菓子をあげ、避難所にはこれも用意した一般支援物資の「カップラーメン」と「スープの素」を渡すと、避難所の皆さんが寄ってきて大いに喜んでいただけました。

パンなどは見受けられますが、ラーメンやスープになるものは何もないというお話でした。ここでも、よく見える正面の小さな入り口に所狭しと、張っていただくことができました。

地域の災害ボランティアと災害対策本部(給食センター)に行き、ポスターの張り出しを頼もうと訪ねました。しかし、いずれも職員は数人と少なく被災者の対応に追われ、手が離せない状況のようでした。やむなく、手短かにポスター張りを頼み、対策本部の建物などにも張り出し、時計を見ると、すでに16時半を

過ぎていました。19時には県社協の「ふれ愛ランド」に戻る約束でしたので、最後に対策本部のボランティアの方にアドバイスを受けた高田病院仮設診療所に急ぐことに。

米崎コミセンの仮診療所も患者さんの診察で忙しそうに看護師さんらが立ち回っていました。お一人の方に声をかけ、ポスターの張り出しとアレルギーの患者さんへの支援を行っているのをお話しすると、ドクターとなにやら相談。管理のコミセンとも話をし、急遽、診療所の奥に支援物資を置いてくれ、患者が来たら渡すとのこと。アルファ米と水をトラックから降ろし始めると、自然と人の手渡しが始まり、あっという間に部屋に積まれることに。皆さんにお礼を述べ、周知をお願いし、急いで帰ることに。

帰りみち、埼玉からウルトラCで駆けつけくれた運転ボランティアの河村さんが帰ることに。途中でエコリス号に乗り換え、河村さんの無事、帰還を祈り、再会を期してわかれます。河村さん子どもは成育センターで治療を受けているとのこと。二村先生(理事)のことやら、主夫でがんばっているとのことなど、道中での話も同じボランティアで働くものどおし、気心にふれ、こうした人々に支えられていることに感謝！感謝！です



3月22日(火)

気になっていた宮城県消防学校(宮城県・仙台市支援物資集積場所)を訪問。名古屋市から送られた7700食のアルファ米の行方をさがす。

「アルファ米は数も少なく人気があるので、残っているのは少ない」と管理者の談。「アレルギー用として特別配慮が必要なものは保育園などに(ミルクなど)送っているが、そのようなものは少ない。」とのこと。アレルギーの方に届かない7700食、悔しい思いを胸に。